

第5回 RIDCマンスリー研究セミナー

東南アジアの玉器研究
～化学分析から見てきたこと～

スピーカー

飯塚義之

中央研究院地球科学研究所(台北)

岡山大学文明動態学研究所

金沢大学古代文明・文化資源学研究センター

日時：2021年10月20日(水) 12:00～13:00

オンライン開催

石製遺物はガラスや金属製品と異なり、腐食、変質することなく、
当時の文化や形態を今に伝えてくれます。

しかし表面研磨が施されている石器石材(岩石)を
肉眼観察によって同定することは大変に難しく、

誤った石材名が報告されていることも少なくありません。

地球科学を専門とする発表者は、ポータブル蛍光X線分析装置(p-XRF)を
考古の現場に持ち込み、石器石材の研究に取り組んでいます。

本発表では、非破壊化学分析の意義と先史時代の台湾や東南アジアで
玉器として利用されてきた「ネフライト」に
関する調査の成果を紹介します。

申し込み先：<https://forms.gle/5Loqt88rtXLvGWwBA> (申し込み締め切り：10月19日12:00)

*オンライン開催のため、ご参加希望の方は事前申し込みをお願いします。折り返し、参加用URLをお送りします。
問い合わせ先：文明動態学研究所 ridc@okayama-u.ac.jp